

第4回一関市総合計画審議会 会議録

- 1 会議名 平成26年度第4回一関市総合計画審議会
- 2 開催日時 平成26年9月19日（金） 午後3時30分から午後5時15分まで
- 3 開催場所 なのはなプラザ3階 一関公民館 大会議室
- 4 出席者
 - (1) 一関市総合計画審議会委員 24人
阿部新一委員、及川忠委員、小山亜希子委員、小山麗子委員、木村静恵委員、金野久美委員、小岩邦弘委員、坂本紀夫委員、佐藤芳郎委員、菅原行奈委員、菅原五三男委員、菅原勇委員、千葉和行委員、千田博委員、千葉真美子委員、徳谷喜久子委員（副会長）、永澤由利委員、永山克男委員、沼倉恵子委員、畠中良之委員（会長）、原田哲委員、松岡千賀子委員、三浦幹夫委員、水谷みさえ委員
欠席委員3人
及川修三委員、千葉博委員、槻山チエ委員
 - (2) 市出席者
平山大輔副市長、佐藤善仁企画振興部長、千葉敏紀企画調整課長、佐藤正幸企画調整課長補佐、菊地絵理子主任主事、菅原翔太主事
- 5 会長挨拶
本日から、基本構想の具体的な部分をつくる作業に入る。より良いものを作っていきたいと思うので慎重な審議をお願い申し上げます。
- 6 市長挨拶（代理 平山副市長）

昨日まで市議会が開催されていた。市議会の議員の皆さんからご意見ご提言をいただいたので紹介する。大きく4点である。

1点目は、地域活性化（企業支援、雇用、イベントの活性化、農業振興など）、2点目は、人口減少、高齢化の問題（福祉、移住定住、結婚支援、子ども子育て支援など）、3点目は、安全安心の確保、放射能問題への対応、4点目は、まちづくりの取組（国際リニアコライダーの実現、道路、水道といったインフラ整備、環境、バイオマス関連など）である。

これらは、どれをとっても欠くことのできない重要な課題と受け止めている。

ワークショップ、アンケートで様々な意見をいただいている。これらを踏まえ、総合計画の策定に向けてご審議を賜りたいと思っている。
- 7 議題
 - (1) 一関市次期総合計画の策定について

- ア 総合計画策定アンケート自由記述欄のまとめ
 - 市民アンケート【資料No.19-1】
 - 中高生アンケート【資料No.19-2】
 - 企業アンケート【資料No.19-3】
- イ 基本構想素案について【資料No.20】
- ウ 総合計画体系図案について【資料No.21】
- エ 総合計画策定スケジュールについて【資料No.22】
- (2) 総合計画審議会委員の意見等への回答
 - 総合計画審議会委員の意見等への回答【資料No.23】
- (3) その他

8 審 議

(1) 一関市次期総合計画の策定について

ア 資料No.19-1～3について、事務局から資料の説明を行い、質疑・意見交換を求めた。

【質疑・意見等】

なし

イ 資料No.20について、会長から資料の説明を行い、資料No.21について、事務局から資料の説明を行い、基本構想の「基本的な考え方」の案についての質疑・意見交換を求めた。

【質疑・意見等】

① 審議会委員意見

「いのち」という文言を使いたい。「いのちかがやく一関」はどうか。

私は「手を結び、宝を育む。いのちかがやく一関」と考えた。

・ 会長

それについては、基本的な考え方ではなく、将来像ではないか。

② 審議会委員意見

「帰ってきたくなる」ではなく、人口減少が深刻なことから、市の魅力を発信し、他から来てほしい、来たくなるような文言の方がいいのでないか。

・ 会長

住んでいる人が幸せになれば、他からも人が集まってくる。まずは、住んでいる人が幸せになり、そこから外へ発信するという考えに基づいて、このようにした。

③ 審議会委員意見

住民自らが主体となってまちをつくるという考え方を入れたい。

④ 審議会委員意見

幸福度が最大とあるが、数字の最大化を目指すのではなく、多種多様な幸福があるのでないか。

⑤ 審議会委員意見

中東北の拠点都市とは、どのような意味か。地理的、規模、イメージなどあるが、何を表すのか。

・ 市回答

一関市は県境を気にせず役割を果たしていきたいと考えている。岩手県南、宮城県北というエリアの中で、いかに地域を良くしていくかという思いで取り組むという意味合いである。

・ 会長

中東北の拠点都市という文言は重点プロジェクトにあるので、基本的な考え方には文言としては入れない。

⑥ 審議会委員意見

農業を頑張っている地域であるので、そのようなイメージを入れたい。

・ 会長

具体的な文言としてではないが、地域資源や地域の宝の部分に農業も入っているというイメージである。

⑦ 審議会委員意見

自分達の現状での事業評価、社会背景等のデータを把握、分析してからでないと、基本構想は考えられないと思う。

・ 会長

市民アンケート、ワークショップの結果の中で市民の意向を汲み取り、全体の流れの中で基本構想を考えていくこととしている。

⑧ 審議会委員意見

外に大きくアピールするのではなく、内向きの幸せの考え方はいいと思う。

ポイントを3つ考えた。まず、土台に、安全安心の暮らしがあり、次に、未来を支える次世代を支援する、そして、住民自らがまちをつくる。

⑨ 審議会委員意見

地域の特殊性を出して、魅力を発信していきたい。

⑩ 審議会委員意見

子どもでも覚えやすい文言がいいのでないか。

⑪ 審議会委員意見

人とまちとがそれぞれつながりをもつようなイメージがある文言がいい。

⑫ 審議会委員意見

アンケートの自由記述欄を読んでみて、市民は一関を愛していると思った。また、雇用が大きな課題だと感じた。

「誇りと自信をもって自らがかがやくまち」、「ふるさとに誇りをもち、生きがいにあふれるまち」はどうか。

⑬ 審議会委員意見

次世代を支援するだけでなく、自分達もまちのために動いていく、実践するようなメッセージがあるといい。

⑭ 審議会委員意見

アンケートでは受け身の姿勢が感じられた。住民一人ひとりのまちづくりに対する意識の向上が必要である。

・ 会長

今までの意見を踏まえると、基本的な考え方は4点である。

まず、産業振興、賑わいの創出、外へアピールするという観点から、「地域の宝や地域資源を生かす」という考え方。

次に、住民自治として、「幸福を実現・追及できるまちを市民一人ひとりの手でつくる」という考え方。

さらに、「未来を支える次世代を支援する」という考え方。

最後に、「安全安心なまち」という考え方である。

ウ 資料No.22 について、事務局から資料の説明を行い、質疑・意見交換を求めた。

【質疑・意見等】

なし

(2) 総合計画審議会委員の意見等への回答

事務局から資料の説明を行い、質疑・意見交換を求めた。

【質疑・意見等】

なし

(3) その他

なし

17時15分 閉会

9 公開、非公開の別 公開

10 傍聴者の数 2人（報道機関）

11 担当課 企画振興部企画調整課